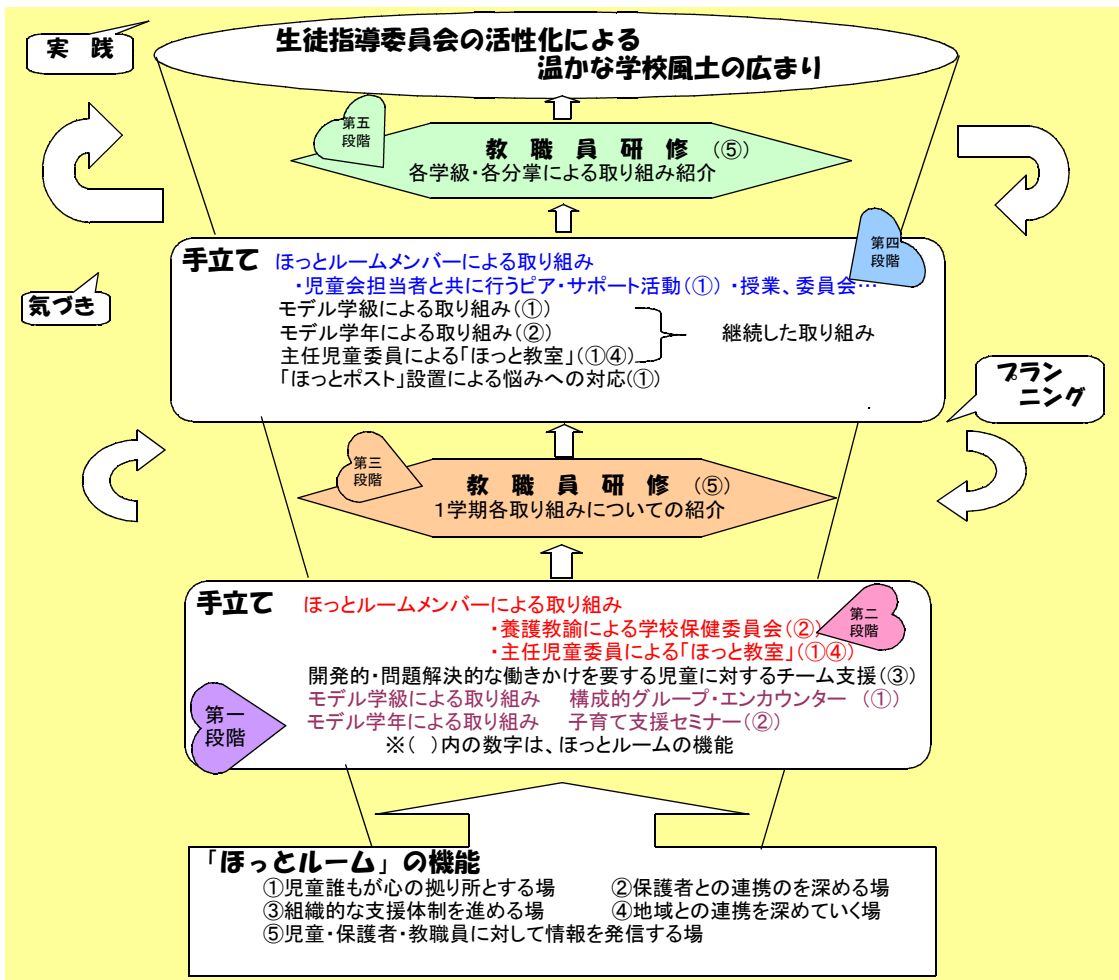


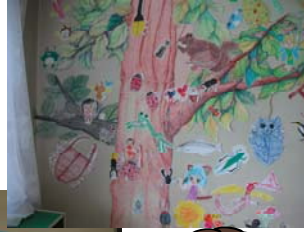
研究の概要

全校児童が、明るく楽しく生き生きとした学校生活を送るために温かな学校風土づくりを目指したものである。そのために、生徒指導委員会を中核とした組織の活性化を図るためのコーディネーターとしての在り方を問うものである。生徒指導部員が「ほっとルームメンバー」として「ほっとルーム」を拠点に、各学級、各分掌において様々な人間関係づくりなどの実践を展開していけるようなコーディネートを試みたものである。



温かな学校風土の広まりについての全体構想図

○拠点となる「ほっとルーム」は、不思議な森のイメージに整備しました。「ほっとポスト」を設置し、手紙を書くことで、悩みの解消を図れるようにしました。



○モデル学級・学年によるSGEと子育て支援セミナー(第一段階より)



○主任児童委員による「ほっと教室」(第二段階より)



生徒指導主任が、コーディネーターとして南小の実態を捉えて、第一段階から第五段階まで手順を踏んで働きかけをしました。



○「ほっとルームメンバー」による取組(第4段階より) =ピア・サポート活動=



○教職員研修(第三・第五段階)より

第三段階では・・・資料やビデオを利用し、簡単なエンカウンターも取り入れて行いました。研修終了後のアンケートでは、「一日一善運動をしたい」「心をいやす本をほっとルームに置きたい」など各学級、各分掌で取り組めそうな内容が出されました。

第五段階では・・・「ほっとルームメンバー」の取組について紹介を行いました。道徳の授業やエンカウンターの実践、学級通信の紹介などがありました。研修終了後のアンケートでは、「広報委員会でほっとルーム特集号を発行したい」「安全主任として、登下校時に上の学年の子が声をかけて歩けるような人間関係づくりをしたい」などがありました。

★★コーディネーターが動くことで、温かい学校風土が広がっていきます。★★

